

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒
○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒

- 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

創立120年を超える歴史を有する本校の役割は、生徒・保護者・地域・社会の期待に応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為で未来を拓く人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール (GLHS)」と「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。

2 中期的目標

1 確かな学力の確立とグローバルリーダーの育成

(1) 生徒の持つ力を最大限に引き出す。

ア 「思考力を深める」授業を探索し、学校組織としての授業力向上に取り組み、確かな学力の育成をめざす。

イ 「岸高学びのスタイル」を各教科で作成・共有し、3年間の指導目標を教員間で確認する。

ウ 「土曜の午前は学習タイム」を徹底し、生徒が主体的に学ぶ環境を整える。

※授業アンケート項目8「授業に興味・関心を持つことができた」項目9「知識や技能が身についた」の平均を3.20/4.0以上を維持(H30 3.16 R1 3.19 R2 3.28)

※(生徒向け)学校教育自己診断「土曜日の午前中を学習に活用」を60%以上に。(H30 61.2% R1 56.8% R2 58.6%)

(2) グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) ・スーパーサイエンスハイスクール (SSH) としての学力向上・活動内容の充実を図る。

ア 4技能統合型の英語授業の導入により、英語で「聞く・話す・読む・書く」運用力をバランスよく身につけさせる。

イ グローバルリーダー養成プログラム等により、海外の大学生や高校生との交流を通じてディスカッション・プレゼンテーション能力を育成する。

ウ 地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化し、次期SSH事業の準備を進める。

エ ICT機器を活用しながら、課題研究の指導手法を一般教科に広める。

※(生徒向け)学校教育自己診断「岸高での授業に満足」を85%に。(H30 80.7% R1 82.3% R2 83.2%)

(3) 「朝読」(読書活動)を実施し、思考力、表現力を養う手段として教科指導と連動し、有効に活用する。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施し、生徒が主体的に考え、それぞれの将来像を描けるよう、「学び方を学ぶ」・「学びに向かう力をつける」ことをめざす。

ア 各種講演や研修、実習を通して、興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う。

イ 大学・研究機関への訪問により、生徒が視野を広げ、主体的に学びに向かう力を育む。

ウ 全員が課題研究に取り組む体制を確立する。

※SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」を70%以上を維持。(H30 74% R1 75% R2 67%)

※SSHアンケート「キャリアスタートゼミを通して自身のキャリアを考えるきっかけになった」を70%以上を維持。(H30 34% R1 81% R2 73%)

(2) 国公立大学志望90%以上という生徒の進路希望を実現させるため、高い志をもち続けることができるようサポートする。

ア 新大学入試に対応した進路指導の取組みをさらに充実させる。

イ 岸高手帳を活用することにより、学習習慣、時間管理能力と様々な活動をポートフォリオとして記録していく習慣を確立させる。

ウ 「岸高ハイレベル講習」「岸高スーパークラス」を円滑に運営し、一層高い志を持った生徒が互いに切磋琢磨し、生徒の能力を最大限に引き出せるようにする。

※国公立大学進学者を60%以上(H29,30で51.8%、H30,R1で56.5% R1,R2で46%)

※(生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」85%以上を維持。(H30 89.7% R1 94.1% R2 92.9%)

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 「文武両道」をめざし、学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める。

ア 学校生活の主体的な取組みを充実し、共感・協働の気持ちを持って取り組めるよう、豊かな感性や体力を育む。

イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する。

ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する。

※(生徒向け)学校教育自己診断「クラブ活動が活発」を90%以上に。(H30 92.4% R1 94.5% R2 93.4%)

※(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてモラルを守る態度を育てようとしている」を80%以上に。(H30 84.9% R1 88.3% R2 77.8%)

(2) 教育相談室(教育相談・支援教育)を充実し、支援の必要な生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。

※(生徒向け)学校教育自己診断「困ったときに気軽に相談できる」を70%に。(H30 66.5% R1 65.8% R2 62.6%)

(3) 海外の学校との相互交流や協働研究で、グローバルリーダーとしての精神を育成する。

※(生徒向け)学校教育自己診断「海外研修やSSH関連行事など他校にはない教育活動がある」の90%以上を維持。(H30 87.5% R1 92.1% R2 96.2%)

4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献

(1) SSHの成果・GLHSの活動等や学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。

(2) 近隣の学校や団体と連携を密にし、地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む。また、本校での行事や活動に近隣の学校や団体が参加できる企画をする。

(3) 生徒と教職員が安全で安心に過ごせる学習環境を充実させる。

※(保護者向け)学校教育自己診断における情報提供の満足度90%以上を維持。(H30年度 91.6% R1 90.1% R2 93.7%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R2年度値)	自己評価
1 確かな学力の確立とグローバルリーダーの育成	<p>(1) 生徒の持つ力を最大限に引き出す。 ア 「思考力を深める」授業を探索し、学校組織としての授業力向上に取り組み、確かな学力の育成をめざす。 イ 「岸高学びのスタイル」を各教科で作成・共有し、3年間の指導目標を教員間で確認する。 ウ 「土曜の午前は学習タイム」を徹底し、生徒が主体的に学ぶ環境を整える。</p> <p>(2) GLHS・SSHとしての学力向上・活動内容の充実。 ア 4技能統合型の英語授業の導入 イ グローバルリーダー養成プログラム等により、ディスカッション・プレゼンテーション能力を育成。 ウ 地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化する。 エ ICT機器を活用しながら、課題研究の指導手法を一般教科に広める。</p> <p>(3) 「朝読」を実施し、思考力、表現力を養う手段として教科指導と連動し、有効に活用。</p>	<p>(1) ア. 授業力向上チームを中心に、ICT機器を活用した授業に全授業担当者が取り組む。 イ・「岸高学びのスタイル」を作成し、教科目標を担当者が共有し、生徒の進路実現を図る。 ・教科別の公開授業週間を活用し、外部へ公開する。また、外部の助言者を招き、指導教諭を中心に、授業力向上をめざす校内研修を行う。 ウ・「千亀利セミナー」(土曜の自学自習)の実施。 各教科の講習の充実。 ・苦手意識を持つ生徒の教科指導「サポート講習」の充実 ・土曜日の1年生対象「岸高スーパー講習」の円滑実施</p> <p>(2) ア・大学入試共通テストへの対応と4技能の生徒の伸長の測定のためにGTECの全員受検を1年2年全員に実施。英検の受験を推奨し、その対策を指導する。 イ. 養成プログラムに参加した生徒によるレポートのまとめを作成し、11月に1年生対象に報告会を行う。 ・【グローバルリーダー養成プログラム(国内版)】海外留学生をリーダーとした夏のプログラムの充実 ・2年生次より、課題研究の成果を論文にする。 ウ. 文理学科の生徒全員が課題研究発表と論文作成をする。全教科の教員が指導担当に当たる。その取組みについて、報告書だけでなく学校ホームページでも積極的に情報発信する。 エ ・「思考力・判断力・表現力」を育む「主体的で対話的な深い学び」の授業を教員が自主的に研究する教育環境を醸成する。 ・実践的な教員研修を年2回行う。</p> <p>(3) ・朝読が「読解力」「論理的思考」「分析力」の育成や「小論文」指導等に繋がる教員各自の教科指導やHR指導の工夫をする。</p>	<p>(1) ア. ICT機器を活用する教員を90%以上 学校支援クラウドサービスを活用する教員を50%以上。 授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目9「知識や技能が身についた」を3.20以上を維持。(R2 平均3.28/4点満点) イ. ※(生徒向け)学校教育自己診断における「岸高での授業に満足」を85%以上に(R2 83.2%) ※教員研修を年に2回以上実施。教員参加率70%以上。 ウ. 「千亀利セミナー」を4月に1年全員に実施。生徒が継続して活用できるよう工夫する。 ・サポート講習の実施を徹底、土曜日午前中を含めて継続的に実施。 ※(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習に活用」を60%以上に(R2 58.6%) ・「ハイレベル講習」受講を1学期に募集・選考し、9月に開始し、一層志を高く持つ生徒の能力を伸ばす。 生徒アンケート「受講してよかった」80%以上(R2 88.2%) 「実力がついた」75%以上(R2 80.9%) (2) 英語検定試験受験を推奨し、その対策指導を校内で実施。 ※(生徒向け)学校教育自己診断における「特色ある教育活動がある」の90%以上を維持。(R2 96.2%) ※各研修・講座の参加満足度 90%以上 を維持する ウ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」70%以上(R2 67%) ・「次期SSH事業開発チーム」を中心に3期申請をする。 エ. ・年度前半に経験年数の少ない教員対象の研修、後半に授業力向上についての研修を行う。 ・(生徒向け)学校教育自己診断「岸高での授業に満足」を85%以上に。(R2 83.2%) ・(教員向け)学校教育自己診断「学校は研修などで指導法の改善に努めている」の80%以上を維持。(R2 89.2%) (3) ・「朝読チャレンジ」(入試問題に挑戦)の活用 ・図書委員主催で教員より推薦する図書を掲載した「おすすめの本紹介の冊子」を作成し、活用する。</p>	
2 高い志をばぐみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育を実施し、「学び方を学ぶ」・「学びに向かう力をつける」ことをめざす。 ア 各種講演や研修、実習を通して、興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う。 イ 大学・研究機関への訪問により、生徒が視野を広げ、主体的に学びに向かう力を育む。 ウ 全員が課題研究に取り組む体制を確立する。</p>	<p>(1) ア ・卒業生による職業講話や、大学教授等の出前講義、SSH講演会などの機会をできるだけ多く提供し、将来について考える機会を与える。 イ ・米国・豪州・ドイツの大学を訪問する研修や、東大・京大・阪大等のキャンパスツアーを実施。 ・東大、京大、阪大の理系研究室、海外大学の理系研究室の見学、JAXA やカミオカンデなどへのサイエンスツアーなどの参加を奨励。 ウ すべての教科で課題研究担当者を分担し、学校全体で課題研究の指導体制を整える。</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断の講演会等の質問項目の肯定的な生徒回答が80%以上維持。(R2 92.9%) イ ・学校教育自己診断の特色のある教育活動等の質問項目の肯定的な保護者回答が80%以上維持(R2 96.0%) ウ 新教育課程チームと研究開発部が連携して実施。研究開発部の打ち合わせを週1回ペースで行う。 ・SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」を70%以上に。(R2 67%) ・SSHアンケート「キャリアスタートゼミを通して自身のキャリアを考えるきっかけになった」を70%以上を維持。(R2 74%)</p>	

	<p>(2) 国公立大学志望90%以上という生徒の進路希望を実現させるため、高い志を持ち続けることができるようサポートする。</p> <p>ア 新大学入試に対応した進路指導の取組みをさらに充実する。</p> <p>イ 岸高手帳を活用することにより、学習習慣、時間管理能力と様々な活動をポートフォリオとして記録していく習慣を確立させる。</p> <p>ウ 「岸高スーパー講習」「岸高スーパークラス」を円滑に運営し、一層高い志を持った生徒が互いに切磋琢磨し、生徒の能力を最大限に引き出せるようにする。</p>	<p>(2)</p> <p>1年次から主体的な学習習慣を確立し、学習時間の確保で学力を向上し、高い志で進路実現しようとする意欲的な生徒を育成。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大学受験に対応した長期休業期間の効果的な講習(外部講師の活用も含む)や、年間を通じて苦手意識のある生徒対象に学習を補完するサポート講習を提供。 ・PT(東大・京大・医学部の希望者集団への個別指導)を行う(継続) ・模試等の分析会の活用。分析会後に進路HRを必ず設け、生徒にできなかったところや今後の学習について、振り返りや考える時間を持たせる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「岸高手帳」の導入により時間管理能力を育成する。学期ごとに振り返りの進路HRで、自身の活動記録として手帳を有効に活用する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者より「スーパー講習」、「スーパークラス(文系、理系)」の設定をすることにより、互いに切磋琢磨して、志を高く持ち、生徒の主体的な「学びに向かう力」が醸成されるよう努める。 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4回実施する模試等の実施後、毎回教員による分析会の後にHRを計画。 <p>イ</p> <p>岸高手帳を本校のキャリアパスポートとして活用する。 岸高手帳の活用度について「活用している」「まあまあ活用している」を80%(令和2年度 50%)</p> <p>アイの取組みの結果として ※国公立大学進学者を現浪合わせて60%以上(72期生はR1,R2で46%) ※(生徒向け)学校教育自己診断における進路指導の満足度85%以上を維持。(R2 92.9%)</p> <p>ウ.</p> <p>1年生「スーパー講習」アンケートで「スーパー講習を受けて進路実現の気持ちが強くなった」肯定の回答が70%以上(R2 64.7%)</p>	
3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をほぐす取組み	<p>(1) 「文武両道」をめざし、学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める。</p> <p>ア 学校生活の主体的な取組みを充実し、共感・協働の気持ちを持って取り組めるよう、豊かな感性や体力を育む。</p> <p>イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する。</p> <p>ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する。</p> <p>(2) 教育相談室(教育相談・支援教育)を充実し、支援の必要な生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。</p> <p>(3) 海外の学校との相互交流や協働研究で、グローバルリーダーとしての精神を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足・文化祭・体育祭・合唱コンクール等行事への生徒の主体的な取組を支援する <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動振興のため社会人講師を活用する ・外部講師を招聘したメンタルトレーニングや理学療法的な講演会をクラブ部員中心に実施し、健康を自己管理する能力を高め、高い志の下、活動において良い結果を出せるよう取り組む ・学習とクラブ活動両立の良い事例の共有やリーダー性を高めるためのリーダー研修をクラブ代表者対象に実施する <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献や主権者としての社会参加意識、人権意識の涵養と生活マナーの向上 ・いじめ防止や人権教育の推進のための教職員や生徒への研修を実施する ・朝の挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻指導を実施。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室(教育相談&支援教育)の円滑な運営を行う ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる ・スクールカウンセラーの助言と共に教育相談室が中心となり、教職員の意識・スキル向上をめざした事例検討会を開催する。 ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外生徒の交流はコロナ禍の状況で不透明であるが、オンライン交流等を含めたGLP(校内版)を充実し、生徒や保護者の異文化理解を進める。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校行事やクラブ活動の満足度90%以上(R2 86.9%) <p>イ</p> <p>(生徒向け)学校教育自己診断「クラブ活動が活発」を90%以上に。(R2 93.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会参加者数 200名以上を維持する(R2実施できず) ・クラブ代表者対象リーダー研修を1回以上実施(R2実施できず) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修の内容を充実させ、教員の人権意識を高め、事案が生じた時の迅速な対応を心がける。 ・(教職員)「学校はいじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応する」80%以上を維持(R2 100%) ・総遅刻数10%(約200件)減をめざす。(R2約2500件) (生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてモラルを守る態度を育てようとしている」を80%以上に。(R2 77.8%) あいさつ運動 20回以上 交通マナー指導 年間 50回以上 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を中心に、生徒に関する情報共有を担当会議、生活指導部会において、その他随時に対応。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談だよりの年間5回以上の発行およびその内容の充実 ・年間1回以上の、事例検討会を実施。また、支援が必要な生徒の対応は随時迅速に行い、週1回行われる学年担任会議や生活指導会議で共有する。 ※(生徒向け)学校教育自己診断における「困ったときに気軽に相談できる」を70%に(R2 62.6%) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外との交流行事、日本における留学生との交流行事などを複数回実施する。 	

4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献	<p>(1) SSHの成果・G L H S の活動等や学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。</p> <p>(2) 近隣の学校や団体と連携を密にし、地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む。また、本校での行事や活動に近隣の学校や団体が参加できるよう取り組む。</p> <p>(3) 生徒と教職員が安全で安心して過ごせる学習環境を充実させる。</p>	<p>(1) 情報発信</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校Webページの「SSHブログ」「岸高アーカイブ」(科目・部活動の課題研究成果)「教育コレクション」「校長ブログ」などを通して本校の教育活動の広報を推進する(継続) 状況が許せば文化祭や体育祭、生徒研究発表会を保護者や地域に公開する <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校Webページを閲覧しやすく改良し、中学生に魅力あるものにする メールリングリストによる情報発信と災害時等に安否確認を確実に出来るように努める <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園との計画的な交流を実施し、防災教育・共同避難訓練を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況が許せば岸高桜祭を実施。内容を精選し、生徒中心の運営にシフトし、生徒が主体的に地域連携について関わる機会になるよう努める。 岸和田市のNPOと連携し、岸和田市の発展に貢献できる取り組みを模索する <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ノークラブデイの励行と全庁退庁日の徹底 部活動や文化祭等の行事の効率化を図る 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断における情報提供の満足度 90%以上を維持する。(R2 93.7%)</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断結果における「国際交流SSHなどの特色ある教育活動」80%以上維持する(R2 96.0%)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校Web ページの更新を委託、促進する。 必要に応じて学年ごとにメール配信を行う。 校長ブログ年に 100 回以上更新 メール連絡 150 以上配信 <p>(2)</p> <p>ア・地域の幼稚園との交流を各学期に 1 回、年 3 回以上実施。その中で防災教育を連携して行う。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭の参加クラブ数 4 クラブ以上 近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年 3 回以上実施 地域の和菓子店と共同で地元の特産品を使った菓子の開発をさらに発展させる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、教職員に退庁の呼びかけを継続。 週休日等における自習室開放日を精選し、教員の週休日勤務の負担を軽減する。 部活動指導員等、外部の指導員を活用し、教員の指導負担を軽減する。 時間外勤務の月平均時間の年間(4月～2月)平均の時数の5%削減(R2 12月まで11%削減) 	
------------------------	---	--	--	--